

(19) 日本国特許庁(JP)

(12) 公開特許公報(A)

(11) 特許出願公開番号

特開2017-203345

(P2017-203345A)

(43) 公開日 平成29年11月16日(2017.11.16)

(51) Int. Cl.		F 1		テーマコード (参考)		
E 0 6 B	9/323	(2006.01)	E 0 6 B	9/323	2 E 0 1 4	
E 0 6 B	3/32	(2006.01)	E 0 6 B	3/32	B	2 E 0 4 3
E 0 6 B	9/02	(2006.01)	E 0 6 B	9/02	G	
E 0 6 B	9/264	(2006.01)	E 0 6 B	9/264	A	
E 0 6 B	9/06	(2006.01)	E 0 6 B	9/06	6 1 O H	
審査請求 未請求 請求項の数 9 O L (全 11 頁)						

(21) 出願番号 特願2016-97244 (P2016-97244)
 (22) 出願日 平成28年5月13日 (2016. 5. 13)

(71) 出願人 390005267
 Y K K A P 株式会社
 東京都千代田区神田和泉町 1 番地
 (74) 代理人 110002147
 特許業務法人酒井国際特許事務所
 (72) 発明者 松田 祐樹
 東京都千代田区神田和泉町 1 番地 Y K K
 A P 株式会社内
 F ターム (参考) 2E014 AA03 CA01 CA06 CA07 CD07
 2E043 AA01 AB05 BB01 BB04 BC06
 BE04 DA01 DA07

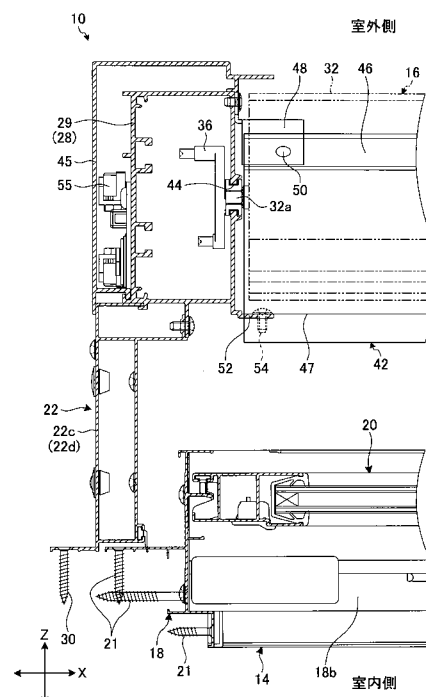
(54) 【発明の名称】ブラインド装置及び建具

(57) 【要約】

【課題】雨水や虫等の入り込みを防止しつつ収容ボックスの小型化を図ることができるブラインド装置及び該ブラインド装置を備えた建具を提供する。

【解決手段】ブラインド装置 1 0 は、複数のスラット 3 2 で構成された可動ルーバー部 1 6 と、可動ルーバー部 1 6 を昇降させる駆動機構部 2 4 と、下面側が開口し、少なくとも駆動機構部 2 4 を収容する収容ボックス 2 6 とを備える。このブラインド装置 1 0 は、可動ルーバー部 1 6 と駆動機構部 2 4 との間を仕切る仕切り板 4 2 を備える。

【選択図】図 3



【特許請求の範囲】**【請求項 1】**

複数のスラットで構成された可動ルーバー部と、該可動ルーバー部を昇降させる駆動機構部と、下面側が開口し、少なくとも前記駆動機構部を収容する収容ボックスとを備えたブラインド装置であって、

前記可動ルーバー部と前記駆動機構部との間を仕切る仕切り板を備えたことを特徴とするブラインド装置。

【請求項 2】

請求項 1 記載のブラインド装置において、

前記駆動機構部は、前記収容ボックス内で少なくとも前記可動ルーバー部の上側となる空間に設けられており、

前記仕切り板は、少なくとも前記可動ルーバー部の上側を仕切る上板を有することを特徴とするブラインド装置。

【請求項 3】

請求項 2 記載のブラインド装置において、

前記駆動機構部は、前記収容ボックス内で前記可動ルーバー部の上側から背面側に亘る空間に設けられており、

前記仕切り板は、前記上板と、前記可動ルーバー部の背面側を仕切る背面板とを有することを特徴とするブラインド装置。

【請求項 4】

請求項 3 記載のブラインド装置において、

前記背面板は、前記可動ルーバー部と当該ブラインド装置が設置される建物の外壁又は躯体との間を塞ぐことを特徴とするブラインド装置。

【請求項 5】

請求項 1 ～ 4 のいずれか 1 項に記載のブラインド装置において、

前記可動ルーバー部の左右端部を昇降可能にガイドするガイド部を有した一对のレール部材を備え、

前記仕切り板は、一对のレール部材間に亘って設けられていることを特徴とするブラインド装置。

【請求項 6】

請求項 5 記載のブラインド装置において、

前記仕切り板は、前記レール部材に対して取付固定されていることを特徴とするブラインド装置。

【請求項 7】

請求項 5 記載のブラインド装置において、

前記レール部材の見付け面には、該レール部材と当該ブラインド装置が設置される建物の外壁又は躯体との間に介在する縦枠材が設けられており、

前記仕切り板は、前記縦枠材に対して取付固定されていることを特徴とするブラインド装置。

【請求項 8】

請求項 1 ～ 5 のいずれか 1 項に記載のブラインド装置において、

前記収容ボックスは、少なくともその正面が開閉可能な点検板で構成されており、

前記仕切り板は、前記点検板に対して取付固定されていることを特徴とするブラインド装置。

【請求項 9】

請求項 1 ～ 8 のいずれか 1 項に記載のブラインド装置と、該ブラインド装置の室内側に設けられた窓装置とを備えることを特徴とする建具。

【発明の詳細な説明】**【技術分野】****【0001】**

本発明は、建物の開口部を開閉するブラインド装置及び該ブラインド装置を備えた建具に関する。

【背景技術】

【0002】

建物の開口部に設けられた窓装置の外部には、シャッター装置と同様な防犯効果等を確保しつつ日射量の調整等が可能なブラインド装置が設置されることがある。この種のブラインド装置に関し、本出願人も例えば特許文献1において窓装置の外部に電動で開閉及び昇降する可動ルーバー部を備えた構成を提案している。

【先行技術文献】

【特許文献】

10

【0003】

【特許文献1】特許第3914515号公報

【発明の概要】

【発明が解決しようとする課題】

【0004】

上記のようなブラインド装置では、引き上げた状態の可動ルーバー部や電動モータ等の駆動機構部を収容する収容ボックスが可動ルーバー部の上部に設置される。駆動機構部を収容ボックス内に収容することにより、雨水や虫等が駆動機構部に入り込むことが防止される。

【0005】

20

ところで、ブラインド装置の上部に設置される収容ボックスは、その意匠性等を考慮すると可能な限り小型化することが望ましい。ところが、収容ボックスを小型化すると当然に収容ボックスによる雨水等の浸入防止効果が小さくなり、収容ボックス本来の機能が低下する懸念がある。また、収容ボックスが小さくなることで、各スラット間を開状態とした可動ルーバー部の各スラット間の隙間からボックス背面側の建物外壁等が視認可能な状態となり、かえって意匠性が低下することもある。

【0006】

本発明は、上記従来技術の課題を考慮してなされたものであり、雨水や虫等の入り込みを防止しつつ収容ボックスの小型化を図ることができるブラインド装置及び該ブラインド装置を備えた建具を提供することを目的とする。

30

【課題を解決するための手段】

【0007】

本発明に係るブラインド装置は、複数のスラットで構成された可動ルーバー部と、該可動ルーバー部を昇降させる駆動機構部と、下面側が開口し、少なくとも前記駆動機構部を収容する収容ボックスとを備えたブラインド装置であって、前記可動ルーバー部と前記駆動機構部との間を仕切る仕切り板を備えたことを特徴とする。

【0008】

また、本発明に係る建具は、上記構成のブラインド装置と、該ブラインド装置の室内側に設けられた窓装置とを備えることを特徴とする。

【0009】

40

このような構成によれば、例えば可動ルーバー部を引き下げると共に各スラット間を開いた状態とし、雨水や虫等が各スラット間の隙間から入り込んだ場合であっても、この雨水等が収容ボックスの内部空間に入り込むことを仕切り板によって阻止できる。これにより、例えば意匠性向上等のために収容ボックスを小型化した場合であっても、その下面側の開口から可動ルーバー部の隙間を通して駆動機構部側に雨水等が入り込むことを防止でき、雨水等から駆動機構部を保護できる。しかも、収容ボックスを小型化した場合であっても、可動ルーバー部の隙間からその背面側にある建物外壁や各種構造部品等が室外側から視認されることを仕切り板によって阻止できる。その結果、当該ブラインド装置の意匠性や品質が一層向上する。

【0010】

50

本発明に係るブラインド装置において、前記駆動機構部は、前記収容ボックス内で少なくとも前記可動ルーバー部の上側となる空間に設けられており、前記仕切り板は、少なくとも前記可動ルーバー部の上側を仕切る上板を有する構成であってもよい。そうすると、可動ルーバー部の上側に設置された駆動機構部に雨水等が入り込むことを一層確実に防止できる。

【0011】

本発明に係るブラインド装置において、前記駆動機構部は、前記収容ボックス内で前記可動ルーバー部の上側から背面側に亘る空間に設けられており、前記仕切り板は、前記上板と、前記可動ルーバー部の背面側を仕切る背面板とを有する構成であってもよい。そうすると、可動ルーバー部の上側から背面側に亘る空間に設置された駆動機構部に雨水等が入り込むことを一層確実に防止できる。

10

【0012】

本発明に係るブラインド装置において、前記背面板は、前記可動ルーバー部と当該ブラインド装置が設置される建物の外壁又は躯体との間を塞ぐ構成であってもよい。そうすると、可動ルーバー部と当該ブラインド装置が設置される建物の外壁や躯体との間が背面板で塞がれるため、建物の外壁や躯体等が可動ルーバー部の隙間から視認されることを一層確実に回避できる。

【0013】

本発明に係るブラインド装置において、前記可動ルーバー部の左右端部を昇降可能にガイドするガイド部を有した一对のレール部材を備え、前記仕切り板は、一对のレール部材間に亘って設けられた構成であってもよい。そうすると、可動ルーバー部が配置される室外側空間と当該ブラインド装置の内部空間との間をより確実に仕切ることができ、駆動機構部に雨水等が入り込むことを一層確実に防止できる。

20

【0014】

本発明に係るブラインド装置において、前記仕切り板は、前記レール部材に対して取付固定された構成であってもよい。そうすると、仕切り板の設置が容易で作業性が向上する。

【0015】

本発明に係るブラインド装置において、前記レール部材の見付け面には、該レール部材と当該ブラインド装置が設置される建物の外壁又は躯体との間に介在する縦枠材が設けられており、前記仕切り板は、前記縦枠材に対して取付固定された構成であってもよい。そうすると、仕切り板の設置が容易で作業性が向上する。

30

【0016】

本発明に係るブラインド装置において、前記収容ボックスは、少なくともその正面が開閉可能な点検板で構成されており、前記仕切り板は、前記点検板に対して取付固定された構成であってもよい。そうすると、点検板の固定と仕切り板の固定をまとめて行うことができ、作業性が向上する。

【発明の効果】

【0017】

本発明によれば、収容ボックスを小型化した場合であってもその内部の駆動機構部側に雨水等が入り込むことを防止できる。

40

【図面の簡単な説明】

【0018】

【図1】図1は、本発明の一実施形態に係るブラインド装置を室外側から見た斜視図である。

【図2】図2は、図1に示すブラインド装置を備えた建具の縦断面図である。

【図3】図3は、図2に示す建具の要部を拡大した横断面図である。

【図4】図4は、収容ボックス及び駆動機構部を省略した状態でのブラインド装置の上部構造を示す斜視図である。

【図5】図5は、ブラインド装置の上部構造を示す縦断面図である。

50

【図 6】図 6 は、仕切り板を一枚のみで構成した構成例を示す縦断面図である。

【図 7】図 7 は、仕切り板を縦枠に取付固定した構成例を示す横断面図である。

【図 8】図 8 は、仕切り板を点検板と共に共締め固定した構成例を示す縦断面図である。

【発明を実施するための形態】

【0019】

以下、本発明に係るブラインド装置について好適な実施の形態を挙げ、添付の図面を参照しながら詳細に説明する。

【0020】

図 1 は、本発明の一実施形態に係るブラインド装置 10 を室外側から見た斜視図である。図 2 は、図 1 に示すブラインド装置 10 を備えた建具の縦断面図であり、図 3 は、図 2 に示す建具の要部を拡大した横断面図である。

10

【0021】

本実施形態に係るブラインド装置 10 は、建物の躯体及び外壁 12 に形成された開口部 12a に設けた窓装置 14 の室外側に設けられる。ブラインド装置 10 は、可動ルーバー部 16 を閉じることで窓装置 14 に対する日射を遮蔽し或いは防犯等のシャッターとして機能する一方、可動ルーバー部 16 を開くことで窓装置 14 を開放するものである。

【0022】

図 2 及び図 3 に示すように、窓装置 14 は、建物の外壁 12 の開口部 12a に固定された窓枠 18 で障子 20 を開閉可能に支持したものである。窓枠 18 は、固定ねじ 21 を用いて建物の外壁 12 に固定される。本実施形態では、窓枠 18 の上窓枠 18a 及び下窓枠 18b で 2 枚の障子 20 を引違い可能に支持した引違い窓を例示している。窓装置 14 は、障子 20 を窓枠 18 に対してすべり出し可能に設けた構成や障子 20 を窓枠 18 に対して嵌め殺した構成等であってもよい。

20

【0023】

図 1 ~ 図 3 に示すように、ブラインド装置 10 は、建物の外壁 12 の外壁面（取付面）12b に取り付けられることで窓装置 14 の室外側を覆うように設置される。ブラインド装置 10 は、建物の躯体に直付けされてもよい。ブラインド装置 10 は、枠体 22 と、可動ルーバー部 16 と、駆動機構部 24 と、収容ボックス 26 と、左右一对のレール部材 28, 29 とを有する。

【0024】

30

枠体 22 は、上枠 22a、下枠 22b 及び左右の縦枠 22c, 22d を四周枠組みして構成され、上枠 22a と下枠 22b との間に中間枠 22e を設けた構成である。各枠 22a ~ 22e は、例えばアルミニウム等の金属の押出型材である。枠体 22 は、固定ねじ 30 を用いて外壁面 12b に対して固定される。上枠 22a 及び縦枠 22c, 22d の上部は、収容ボックス 26 の一部を構成する。窓装置 14 は、中間枠 22e 及び下枠 22b と左右の縦枠 22c, 22d とで囲まれる開口部に配置される。

【0025】

なお、本出願において、見込み方向とはブラインド装置 10 の室内外方向（図中に矢印 Z で示す方向）をいい、見込み面とは見込み方向に沿って延在する平面をいう。また、見付け方向とは見込み方向に直交する方向であり、上下方向に長尺なレール部材 28, 29 や縦枠 22c, 22d 等の場合はその長手方向である上下方向（図中に矢印 Y で示す方向）をいい、左右方向に長尺な収容ボックス 26 や上枠 22a 等の場合はその長手方向である左右方向（図中に矢印 X で示す方向）をいう。さらに、見付け面とは見付け方向に沿った平面をいう。

40

【0026】

可動ルーバー部 16 は、アルミニウム等で形成された薄い金属板である複数のスラット 32 で構成されている。スラット 32 は樹脂製でもよい。可動ルーバー部 16 は、最下部のスラット 32 を最上位置まで引き上げた状態（図 2 参照）と、最下位置まで引き下げた状態（図 1 参照）との間で昇降動作可能である。可動ルーバー部 16 は、適宜位置まで引き下げた各スラット 32 の角度を変化させて窓装置 14 への日射の取込量を調整する開閉

50

動作も行うことができる。

【 0 0 2 7 】

駆動機構部 2 4 は、可動ルーバー部 1 6 の昇降動作及び開閉動作を電動で行う電動機構である。図 2 に示すように、駆動機構部 2 4 は、収容ボックス 2 6 内に収容され、可動ルーバー部 1 6 の上側から背面側に亘る空間 3 4 に配置されている。駆動機構部 2 4 は、可動ルーバー部 1 6 の上側となる空間にのみ配置され、背面側には配置されない場合もある。

【 0 0 2 8 】

駆動機構部 2 4 は、可動ルーバー部 1 6 の上側となる位置で空間 3 4 に配置された電動モータ 2 4 a と、可動ルーバー部 1 6 の背面上部となる位置で空間 3 4 に配置されたコントローラ 2 4 b とを有する。コントローラ 2 4 b は、例えば室内に設置されたりリモートコントローラからの操作指令を受けて電動モータ 2 4 a を駆動し、可動ルーバー部 1 6 の昇降動作や開閉動作を駆動制御する制御部である。電動モータ 2 4 a は、レール部材 2 8 , 2 9 内に挿入されたチェーンを周回駆動することで、各スラット 3 2 の端部と連結された操作部材 3 6 (図 3 参照) を動作させ、これにより可動ルーバー部 1 6 を実際に昇降動作及び開閉動作させる駆動源である。駆動機構部 2 4 は、電動モータ 2 4 a 及びコントローラ 2 4 b を用いた電動機構ではなく、手動によって可動ルーバー部 1 6 を昇降動作及び開閉動作させる機構で構成されてもよい。

【 0 0 2 9 】

収容ボックス 2 6 は、当該ブラインド装置 1 0 の上部カバーとなる部分 (ヘッドボックス) である。収容ボックス 2 6 は、駆動機構部 2 4 によって引き上げされた可動ルーバー部 1 6 の上部の一部と駆動機構部 2 4 とを収容する。収容ボックス 2 6 は、上枠 2 2 a と、断面略 L 字状に形成されて上枠 2 2 a の室外側に連結された点検板 3 8 と、点検板 3 8 の左右端部を塞ぐ側面蓋材 4 0 と、左右の縦枠 2 2 c , 2 2 d とにより、下面側が開口したボックス形状に構成されている (図 1 及び図 2 参照) 。収容ボックス 2 6 の下面側の開口は、後述する仕切り板 4 2 , 4 3 によって蓋されることで、収容ボックス 2 6 の空間 3 4 が屋外から仕切られている。

【 0 0 3 0 】

点検板 3 8 は、上枠 2 2 a の上面から連続するように前下がりに傾斜した屋根板 3 8 a と、屋根板 3 8 a の前端から鉛直下方に屈曲され、図 2 に示すように引き上げた可動ルーバー部 1 6 の上部正面を覆う前板 3 8 b とを有する。このように引き上げ状態にある可動ルーバー部 1 6 が前板 3 8 b の下端から露出するように構成することで、可動ルーバー部 1 6 を常に当該ブラインド装置 1 0 の外観上に露出させ、意匠性を向上させている。前板 3 8 b は、引き上げ状態にある可動ルーバー部 1 6 を全て覆う寸法で構成されてもよい。点検板 3 8 は、枠体 2 2 に対して着脱可能に設けられ、収容ボックス 2 6 内の駆動機構部 2 4 等の点検を容易に行うことが可能となっている。

【 0 0 3 1 】

レール部材 2 8 , 2 9 は、断面略矩形に形成されて互いに対向するように設置され、互いに対称形状とされている。従って、図 3 では、一方のレール部材 2 8 及びその周辺部を図示しているが、他方のレール部材 2 9 及びその周辺部 (後述するカバー部材 4 5 等) の構成はレール部材 2 8 に対して対称形状とされており、その詳細な図示は省略する。

【 0 0 3 2 】

レール部材 2 8 , 2 9 のそれぞれの内側見込み面には、可動ルーバー部 1 6 の各スラット 3 2 の左右端部を昇降可能にガイドする上下方向に延びた溝状のガイド部 4 4 が設けられている。ガイド部 4 4 は、各スラット 3 2 の左右端部から突出した軸ピン 3 2 a を昇降可能に且つ回転可能に支承している (図 3 参照) 。軸ピン 3 2 a は、レール部材 2 8 , 2 9 内で操作部材 3 6 と連結されている。

【 0 0 3 3 】

レール部材 2 8 , 2 9 の室内側見付け面には、それぞれ縦枠 2 2 c , 2 2 d がねじ止め固定されている (図 3 参照) 。また、レール部材 2 8 , 2 9 には、その室外側見付け面及

10

20

30

40

50

び外側見込み面を覆うカバー部材 4 5 が取付固定されている。カバー部材 4 5 は、レール部材 2 8 , 2 9 の室外側見付け面及び外側見込み面との間にある程度の隙間を介して設置され、例えばアルミニウム等の金属による断面略 L 字状の押出型材である。カバー部材 4 5 とレール部材 2 8 , 2 9 の外面との間の隙間は、駆動機構部 2 4 に接続される電源ケーブルや、可動ルーバー部 1 6 の昇降位置を検出する検出スイッチ 5 5 等の設置空間として利用される。

【 0 0 3 4 】

図 4 は、収容ボックス 2 6 及び駆動機構部 2 4 を省略した状態でのブラインド装置 1 0 の上部構造を示す斜視図である。図 5 は、ブラインド装置 1 0 の上部構造を示す縦断面図であり、可動ルーバー部 1 6 を引き下げて各スラット 3 2 間を開いた状態を示す。

10

【 0 0 3 5 】

図 2 及び図 5 に示すように、収容ボックス 2 6 の正面側下部に設けられた可動ルーバー部 1 6 と駆動機構部 2 4 との間が仕切り板 4 2 , 4 3 によって仕切られている。仕切り板 4 2 , 4 3 は、可動ルーバー部 1 6 が配置される屋外側部分から駆動機構部 2 4 が配置される収容ボックス 2 6 の内部空間（空間 3 4 ）を塞ぐことで、雨水や塵、虫等が空間 3 4 内に入り込むことを防止する遮蔽板である。

【 0 0 3 6 】

仕切り板 4 2 は、可動ルーバー部 1 6 の上側と空間 3 4 とを仕切る略水平方向に延びた上板 4 6 と、可動ルーバー部 1 6 の背面側と空間 3 4 とを仕切る略鉛直方向に延びた背面板 4 7 とによって断面略 L 字状に構成されている。図 3 ~ 図 5 に示すように、上板 4 6 は、左右のレール部材 2 8 , 2 9 の内側見込み面にねじ止め固定された金具であるブラケット 4 8 に連結ねじ 5 0 を用いて締結固定される。仕切り板 4 2 は、ブラケット 4 8 を介さずにレール部材 2 8 , 2 9 に直接的に取付固定されてもよい。背面板 4 7 は、レール部材 2 8 , 2 9 の内側見込み面の室内側端部から内方に突出した突出片 5 2 に対して連結ねじ 5 4 を用いて締結固定される。

20

【 0 0 3 7 】

仕切り板 4 3 は、仕切り板 4 2 の背面板 4 7 の下端部と中間枠 2 2 e との間の隙間を埋めるためのものである。仕切り板 4 3 は、仕切り板 4 2 の背面板 4 7 と同様に略鉛直方向に延び、可動ルーバー部 1 6 の背面側と空間 3 4 とを仕切る。図 4 に示すように、仕切り板 4 3 は、レール部材 2 8 , 2 9 の内側見込み面の室内側端部から内方に突出した突出片 5 2 に対して連結ねじ 5 4 を用いて締結固定される。仕切り板 4 3 と中間枠 2 2 e との境界部分は水密材 5 6 でシールされる。

30

【 0 0 3 8 】

このように、仕切り板 4 3 は、仕切り板 4 2 の背面板 4 7 の下端部と中間枠 2 2 e との間の隙間を埋めるためのものである。このため、この隙間がない場合は図 6 に示すように仕切り板 4 3 を省略し、仕切り板 4 2 の背面板 4 7 と中間枠 2 2 e との間を水密材 5 6 で連結してもよい。換言すれば、例えば可動ルーバー部 1 6 のスラット 3 2 の設置枚数に応じてその背面の上下長が変化するため、この上下長に応じて仕切り板 4 3 の設置の要否を判断することができ、汎用性が高い。

【 0 0 3 9 】

この場合、本実施形態に係るブラインド装置 1 0 は、複数のスラット 3 2 で構成された可動ルーバー部 1 6 と、可動ルーバー部 1 6 を昇降させる駆動機構部 2 4 と、下面側が開口し、少なくとも駆動機構部 2 4 を収容する収容ボックス 2 6 とを備えた構成において、可動ルーバー部 1 6 と駆動機構部 2 4 との間を仕切る仕切り板 4 2 (4 3) を備える。

40

【 0 0 4 0 】

従って、例えば図 5 に示すように可動ルーバー部 1 6 を引き下げて各スラット 3 2 間を開いた状態とし、雨水や虫等が各スラット 3 2 間の隙間から入り込んだ場合であっても、この雨水等が収容ボックス 2 6 の内部空間（空間 3 4 ）に入り込むことを仕切り板 4 2 (4 3) によって阻止できる。これにより、例えば意匠性向上等のために収容ボックス 2 6 を小型化した場合であっても、その下面側の開口から各スラット 3 2 間の隙間を通して駆

50

動機構部 2 4 側に雨水等が入り込むことを防止でき、雨水等から駆動機構部 2 4 を構成する電動モータ 2 4 a やコントローラ 2 4 b を保護できる。このため、これら電装部品の防水処理が不要となり、コストを低減できる。しかも、収容ボックス 2 6 を小型化した場合であっても、可動ルーバー部 1 6 の各スラット 3 2 間の隙間からその背面側にある建物の外壁 1 2 又は躯体や各種構造部品等が室外側から視認されることを仕切り板 4 2 (4 3) によって阻止できる。その結果、当該ブラインド装置 1 0 の意匠性や品質が一層向上する。

【 0 0 4 1 】

当該ブラインド装置 1 0 では、駆動機構部 2 4 は、収容ボックス 2 6 内で可動ルーバー部 1 6 の上側から背面側に亘る空間 3 4 に設けられており、仕切り板 4 2 は、可動ルーバー部 1 6 の上側を仕切る上板 4 6 と、可動ルーバー部 1 6 の背面側を仕切る背面板 4 7 とを有する。このため、可動ルーバー部 1 6 の上側から背面側に亘る空間 3 4 に設置された駆動機構部 2 4 に雨水等が入り込むことを一層確実に防止できる。この際、背面板 4 7 は、可動ルーバー部 1 6 と当該ブラインド装置 1 9 が設置される建物の外壁 1 2 又は躯体との間を塞ぐため、可動ルーバー部 1 6 の背面側に配置される建物の外壁 1 2 又は躯体等を一層確実に隠すことができる。

10

【 0 0 4 2 】

当該ブラインド装置 1 0 では、可動ルーバー部 1 6 の左右端部を昇降可能にガイドするガイド部 4 4 を有した一对のレール部材 2 8 , 2 9 を備え、仕切り板 4 2 (4 3) は、一对のレール部材 2 8 , 2 9 間に亘って設けられている。これにより、可動ルーバー部 1 6 が配置される室外側空間と当該ブラインド装置 1 0 の内部 (空間 3 4) との間をより確実に仕切ることができ、駆動機構部 2 4 に雨水等が入り込むことを一層確実に防止できる。

20

【 0 0 4 3 】

この際、仕切り板 4 2 (4 3) は、図 3 に示すようにレール部材 2 8 , 2 9 に対して取付固定されるため、その設置が容易で作業性が向上する。但し、仕切り板 4 2 (4 3) は、図 7 に示すように左右のレール部材 2 8 , 2 9 にそれぞれ取付固定された縦枠 2 2 c , 2 2 d に対して取付固定されてもよい。

【 0 0 4 4 】

図 7 に示す構成例では、仕切り板 4 2 は、上板 4 6 が左右のレール部材 2 8 , 2 9 の内側見込み面にねじ止め固定されたブラケット 4 8 に連結ねじ 5 0 を用いて締結固定される。一方、背面板 4 7 は、レール部材 2 8 , 2 9 の室内側見付け面に取付固定された縦枠 (縦枠材) 2 2 c , 2 2 d に対して連結ねじ 5 4 を用いて締結固定される。仕切り板 4 2 は、ブラケット 4 8 と同様な金具を介して縦枠 2 2 c , 2 2 d に取付固定されてもよい。この構成によっても、仕切り板 4 2 の設置が容易で作業性が向上する。なお、この図 7 に示す構成例では、レール部材 2 8 , 2 9 の外側見込み面を外方にオフセットし、この外側見込み面と縦枠 2 2 c , 2 2 d の外側見込み面とを面一に配置すると共に、カバー部材 4 5 に代えてレール部材 2 8 , 2 9 の室外側見付け面のみを覆うカバー部材 5 8 を取付固定している。これにより、当該ブラインド装置 1 0 の左右方向の見付け寸法を小さくし、その意匠性を一層向上させている。

30

【 0 0 4 5 】

また、当該ブラインド装置 1 0 では、収容ボックス 2 6 は、少なくともその正面が開閉可能な点検板 3 8 で構成されている。そこで、仕切り板 4 2 の上板 4 6 は、点検板 3 8 の前板 3 8 b と共に例えばブラケット 4 8 に対して連結ねじ 5 0 を用いて共締め固定されてもよい (図 8 参照)。図 8 に示す構成例では、点検板 3 8 の前板 3 8 b 内面から室内側方向に向かって突出した取付片 3 8 c を連結ねじ 5 0 によって上板 4 6 と共に共締めしている。仕切り板 4 2 は、ブラケット 4 8 と同様な金具を介して点検板 3 8 に取付固定されてもよい。この構成では、点検板 3 8 の固定と仕切り板 4 2 の固定をまとめて行うことができ、作業性が向上する。しかも収容ボックス 2 6 の正面壁となる点検板 3 8 と仕切り板 4 2 とがねじ止め固定されることで、収容ボックス 2 6 内の空間 3 4 をより確実に室外側空間から閉塞することができる。

40

50

【 0 0 4 6 】

なお、本発明は、上記した実施形態に限定されるものではなく、本発明の主旨を逸脱しない範囲で自由に変更できることは勿論である。

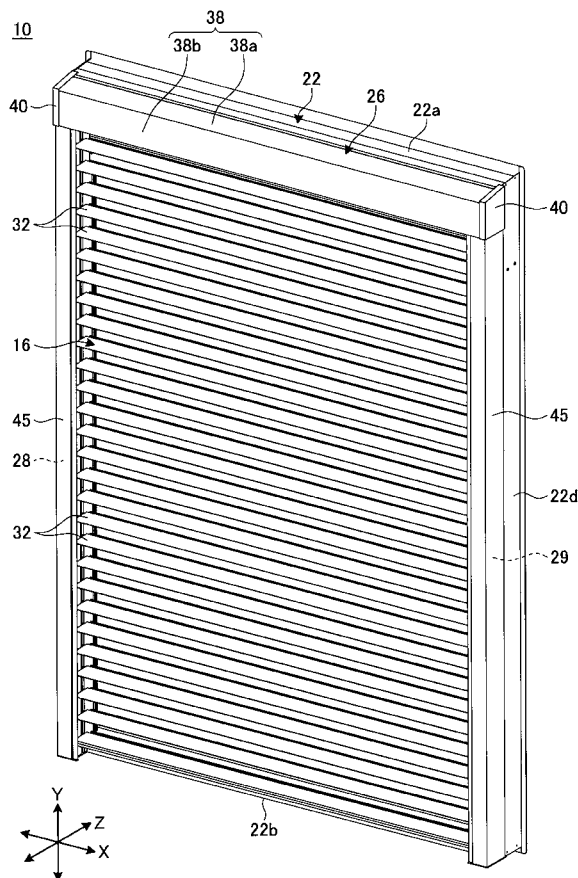
【 符号の説明 】

【 0 0 4 7 】

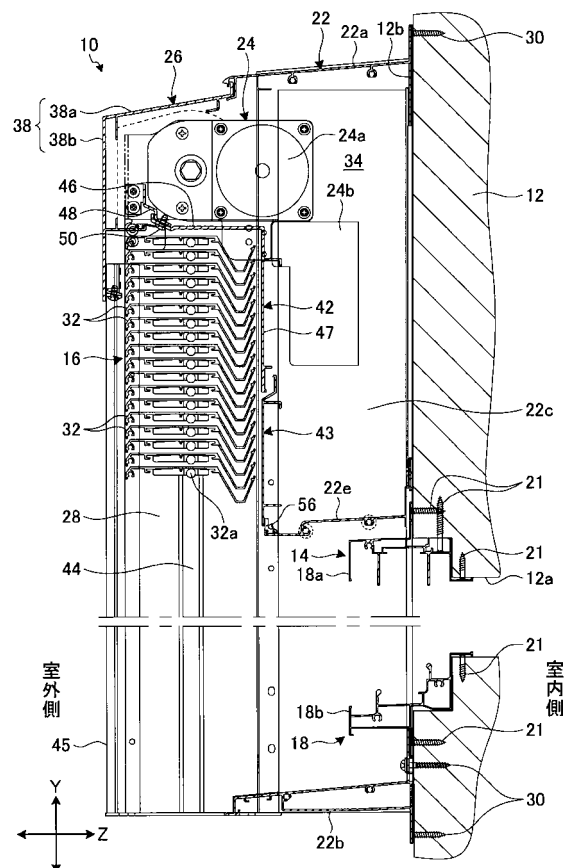
10 ブラインド装置、12 外壁、12 a 開口部、12 b 外壁面、14 窓装置、16 可動ルーバー部、18 窓枠、20 障子、22 枠体、22 a 上枠、22 b 下枠、22 c、22 d 縦枠、22 e 中間枠、24 駆動機構部、24 a 電動モータ、24 b コントローラ、26 収容ボックス、28、29 レール部材、32 スラット、34 空間、38 点検板、42、43 仕切り板、44 ガイド部、46 上板、47 背面板、48 ブラケット、50、54 連結ねじ

10

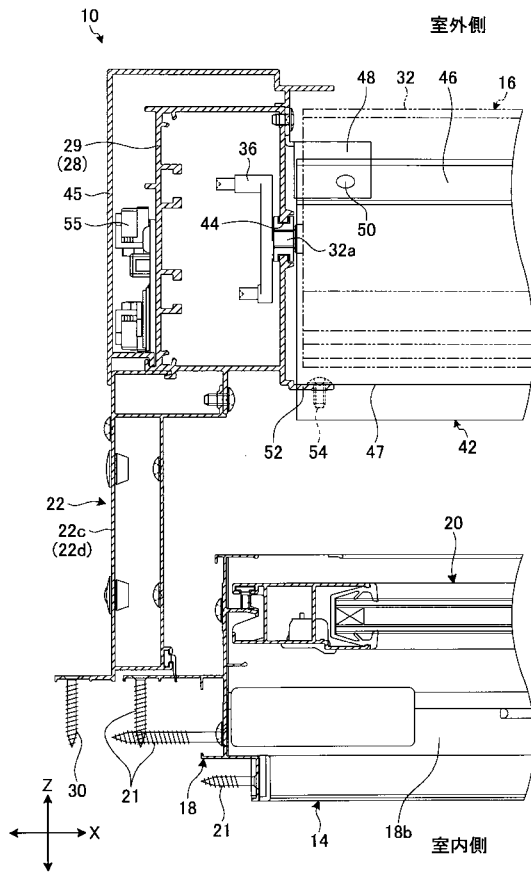
【 図 1 】



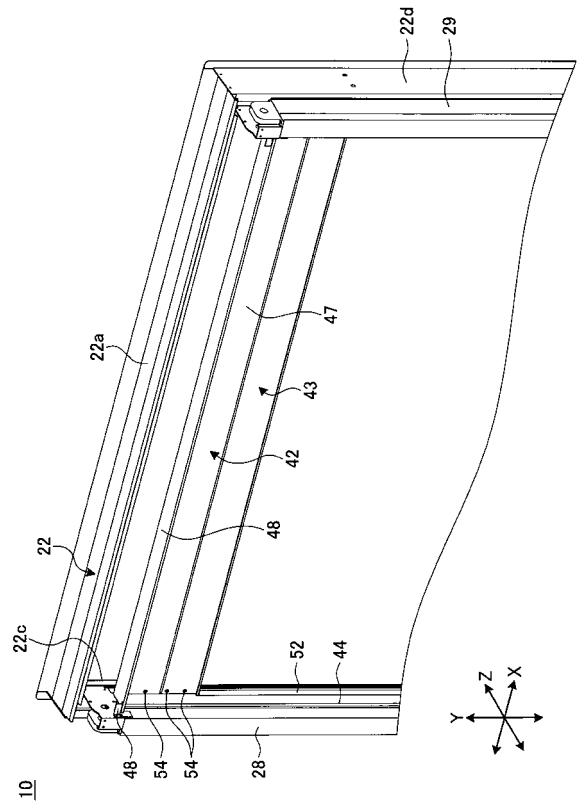
【 図 2 】



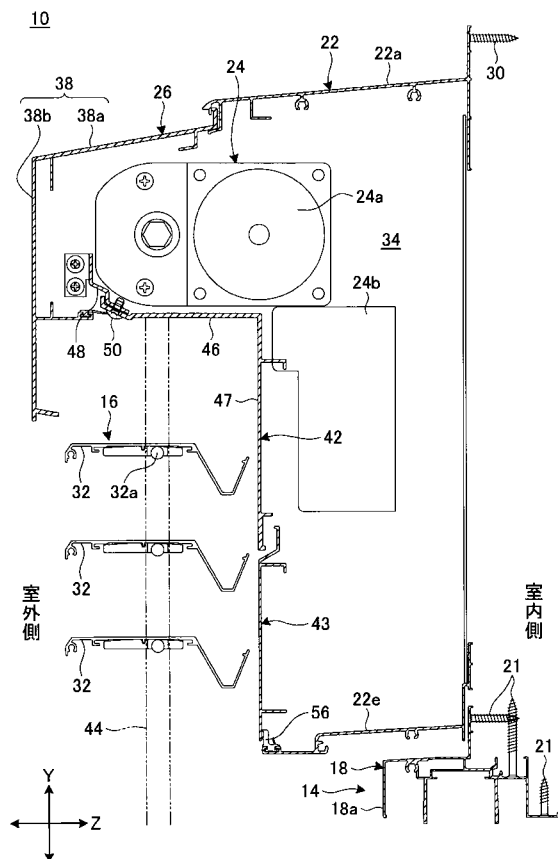
【図 3】



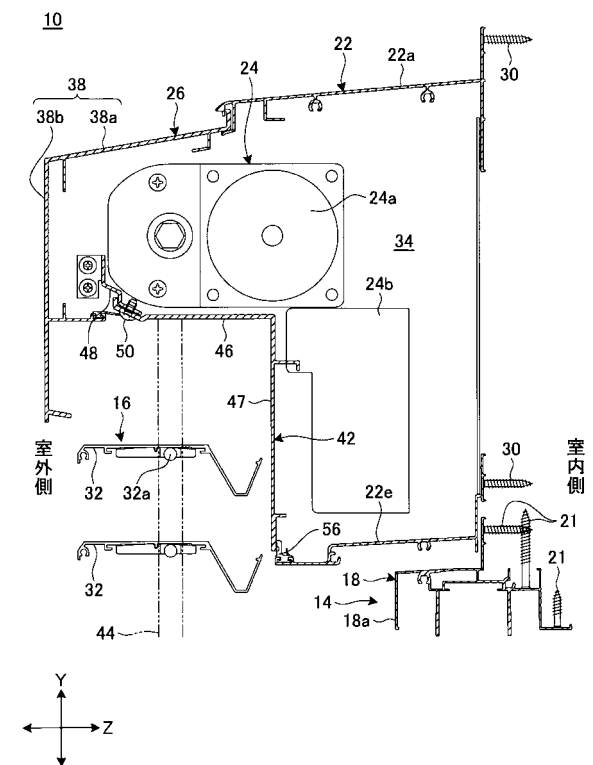
【図 4】



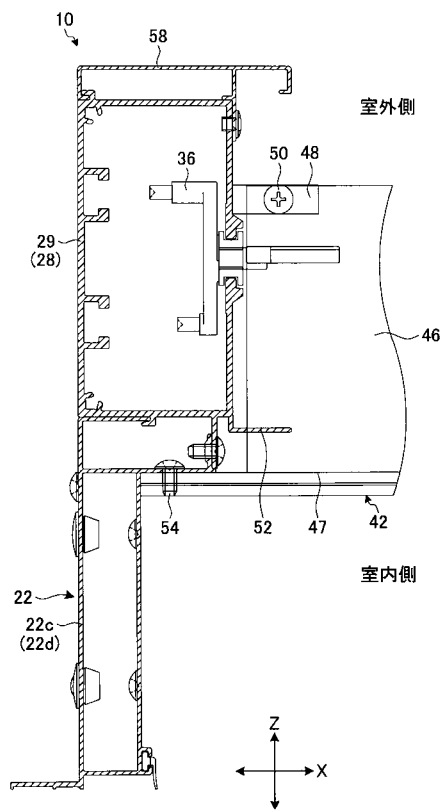
【図 5】



【図 6】



【 図 7 】



【 図 8 】

